

## ANA、日本で初めてボーイング787-9型機を受領

～初号機を7月27日に引き渡し、7月29日に日本到着～

～初号機は国内線仕様、395席に決定～

ANA は、7月27日(日本時間28日)にアメリカ・ワシントン州エバレットで、ボーイング787-9型機を日本で初めて受領いたします。この機体は7月28日(日本時間29日)にエバレットを出発し、翌29日に日本に到着する予定です。

ボーイング787-9型機は、787-8型機の胴体を延長したモデルで、787-8型機よりも更に高い23%の燃費性能(\*1)を有しながら、約1.2倍の座席と貨物(\*2)を搭載することが可能になり、運航コストの低減と、国際線を中心としたANAの更なる事業拡大に寄与する機材です。

高い燃費性能で運航コストの低減と環境性能の向上が期待されるほか、787-8型機と同様、新たなテクノロジーの採用により客室内湿度、耳への気圧負担感、窓の大きさなど、これまでにない機内環境の快適性を実現しています。

受領する初号機は国内線仕様であり、787-8型機の国内線仕様機に比べ60席多い395席仕様となります。この機材は8月以降国内線へ投入されるほか、来年度以降、国際線へも順次投入してまいります。

ANAは世界最大のボーイング787発注エアラインであり、787-8型機を36機(2011年より導入、既に28機を保有)、787-9型機を44機、合計80機を発注済みです。現在保有する計28機の年間の燃費削減効果は羽田=フランクフルト間約500往復、CO2削減効果は東京ドーム約5,000個分(\*3)に相当します。全80機導入の際には、年間の燃費削減効果は羽田=フランクフルト間約1,400往復、CO2削減効果は東京ドーム約15,000個分(\*3)に相当します。

この最新鋭機の投入により、ANAは新規路線開拓や既存路線の増便などの成長戦略を加速させ、競争力強化を実現してまいります。

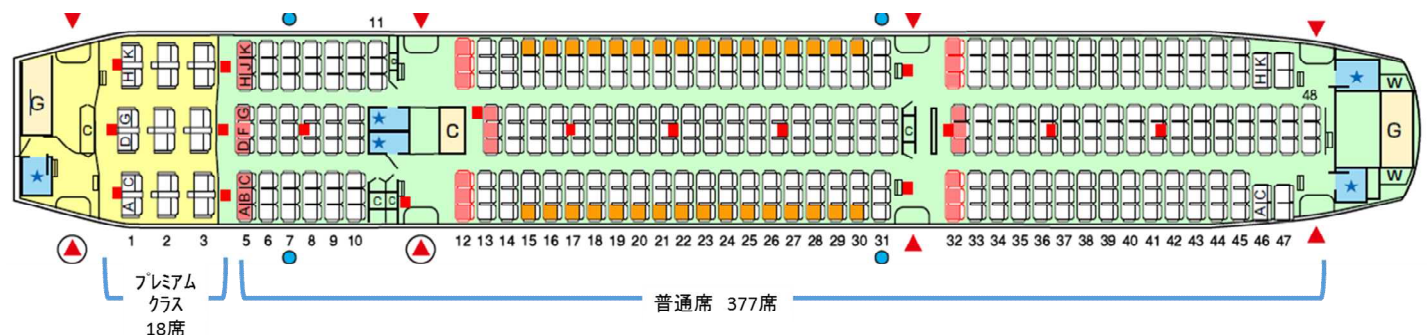
(\*1)燃費効率 はボーイング767-300ER比較

(\*2)座席数は国内線仕様機材での比較、貨物は搭載可能重量での比較

(\*3)東京ドームの面積に一定間隔で植林した杉の木のCO2吸収量に換算



<国内線仕様機材シートマップ>

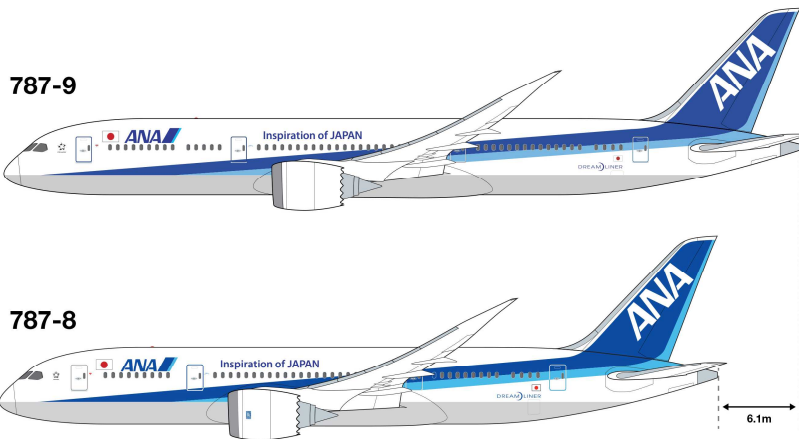


<ボーイング 787-9 型機、787-8 型機諸元>

	B787-9型機	B787-8型機
全長	62.8m	56.7m
全高	17.0m	16.9m
全幅	60.1m	
客室幅(※1)	5.2m	
座席数(当社国内線仕様)	395席	335席
貨物搭載可能重量	約22t	約18t
装備エンジン	Rolls-Royce社製 Trent1000型	
巡航速度	M0.85	
航続距離(※2)	約11,000km ( 米西海岸 )	

(※1)客室床面から約1.3m( 肩の高さ )での客室幅

(※2)満席時に航続可能な距離



787-9 型機には、プレミアムクラス・普通席ともに、最新型のシートを採用しております。

<プレミアムクラス>	<普通席>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 約130度のリクライニング(国内最大級)</li> <li>■ 従来比130%の大型テーブル</li> <li>■ プライベート空間を演出する仕切り板</li> <li>■ PC電源やUSB充電ポートを装備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 膝回りを現行座席から最大+5cmとし、空間を確保</li> <li>■ 2012年より、更に薄く軽量化されたシートを導入</li> <li>■ ボーイング787国内線仕様の全機材に導入済</li> <li>■ 耐久性に優れ、滑りにくく蒸れにくいファブリックを採用</li> </ul>